

# 台東育英

VOL. 22

No. 8

台東区立台東育英小学校

校長 瀬下 清

<http://www.taitocity.net/taidoukuei-s/>

## 大谷選手の MVP

副校長 原 之雄

アメリカの大リーグで、先日今年度の MVP が発表されました。現代においては実現不可能と言われた投打の二刀流を見事にやってのけた大谷翔平選手が満票で選出されました。マンガの世界ではあり得ても・・・と驚嘆した方も多かったのではないのでしょうか。

抜群の身体能力、天賦の才能と努力が強調される大谷選手ですが、高校時代の野球部監督、佐々木さんは別の面から、概略こんなことを言っています。「私が育てるとかはなかったです。考え方に関してだけはしっかり話をしましたが、環境さえ与えれば自分でアップデートしていく選手です。目標を設定させ、邪魔せず見守って、経験さえ積みませれば、自ら上がっていくので。そういう姿勢はプロになってからも、アメリカに行っても変わらない感じがします。」他にも大谷選手をよく知る人は、異口同音に言います。「自分で自分を成長させられる選手だった。」このことの意味は大きいと思います。

厳格な指導者の下、指示されたハードなトレーニングに耐え、技術と精神力を鍛える、または優れた指導者の下、科学的、合理的なトレーニングを様々なスタッフのアドバイスの下に行う、これが今までのコーチングの基本でした。そして、この指導によって素晴らしい成績を残した運動選手もたくさんいます。

一方、現千葉ロッテマリーンズの吉井理人投手コーチは、「コーチの仕事は、選手が自分で考え、課題を設定し、自分自身で能力を高められるように導くことだ」と言っています。自ら大リーグの選手として活躍した後、指導者として経験を積み、さらに大学院でコーチングについて学んだ吉井さんが出した結論です。

この2つの指導法、効率を考えれば前者のほうが良いのでしょうか。しかし、先を考えた場合どうでしょう。さらに高い目標や必ずしも答えのない課題、前例のない新たな課題に対しては？ 教えられたこと以上のことは、難しいかもしれません。

後者の場合はどうでしょう。確かに時間はかかります。しかし、選手自身が自分で考え、それを解決した経験があります。この経験をベースにもっと高い目標にチャレンジできるよう自分で自分を成長させられるかもしれません。これが「自己教育力」の力です。そして、この力に限りはありません。

このことは、学校での学習にも言えます。例えば、小、中学校、さらには高校で学ぶ算数や数学の内容は全て合わせても、数学(論理)という巨大な森から見れば、何万分の一に過ぎないでしょう、たとえハードなトレーニングによって大学受験の難しい問題が解けるようになったとしても。大切なのは、その一を自分の力で二に、五に、そして十にしていく力で、それこそが「自己教育力」です。小学校で学ぶ分数のわり算、やり方を教えれば4年生でも短時間で習得できるでしょうが、6年生で何時間もかけて自力解決を通して学習するのには、こういう狙いがあるからなのです。

誰もが大谷選手のようになれるわけでは勿論ありません。しかし、自己教育力によって自分の人生を豊かで、喜びに満ちたものにできるかもしれない。そういった意味で誰もが MVP の資格をもっている・・・。大谷選手の MVP 受賞に励まされた初冬となりました。

## 学習発表会について

学習発表会委員長 高橋 芳絵

今年は、「新型コロナウイルス感染拡大防止を最優先すること。感染状況によって、学校行事の延期等を繰り返すことはせず、児童の精神的な負担を避けること。感染状況の変化に関わらず、教育活動全体の見通しをもった計画とし、児童に学習の保証をすること。」こうした考えのもと、児童に無理な負担がなく、計画的に準備を進めるためにも、2学期開始の段階で、「学芸会」を「学習発表会」に変更いたしました。その発表の仕方についても吟味いたしました。本来であれば、全学年で集まりたかったところですが、予め動画撮影したものを発表会当日に教室で見るという形をとりました。9月から体育発表会の練習と同時進行で、学習発表会の練習や撮影を計画的に進めました。保護者の皆様には期間限定で動画の公開を行います。また、希望される方にはDVDの販売も行います。内容は、20周年記念行事の取り組みと、学習発表の要素である「日常の学習成果」を統合いたしました。撮影にあたり、たくさんの伝えたい内容をどのようにまとめようかと、各学級、時間を意識して構成するのに苦労しました。いくつかを紹介いたします。

まず、「思い出プロジェクト」です。今年度1学期までに、図工の時間に学習した技法や題材で台東育英小学校の校舎内壁やドア等にペイントをしました。道具や材料も発達段階に合わせました。学年ごと、それぞれ味があります。

次に、「学習クイズリレー」です。今年度1学期までに習ったことを学級ごとに振り返り、○×クイズとして出題しました。どの学級も日頃の学びの成果が表れています。子供たちの成長を、クイズを通してお楽しみください。

そして、「20周年記念の手ぬぐい作成紹介」です。全校児童にデザイン画を描いてもらいました。最終的には、本校のマスコットキャラクターであるきずなくんが笑顔で手を取り合う姿が、見る人の気持ちを前向きにさせるような、素敵な手ぬぐいに仕上がりました。「Hopeful future」(希望に満ちた未来)のテーマにぴったりのデザインです。

さらに、「こども宇宙プロジェクトの紹介」です。昨年度、創立20周年を祝賀する一環として、子供たちが未来に希望をもって進んでいくことを目指して取り組みました。児童一人一人が、将来の夢を紙に書いてもち、学級写真を撮りました。その写真はモザイクアートになり、NASA ケネディ宇宙センターからロケットに搭載され、国際宇宙ステーション「きぼう」へ旅立ちます。子供たちの夢と笑顔が、広い宇宙の「きぼう」とつながります。楽しみですね。

最後に、「金管バンドと育英太鼓の演奏」です。金管バンドは、開校20周年をお祝いし、衣装を新しくしました。校舎が変わったことで音の響き方も変わり、合わせるのが難しい中、一生懸命演奏しました。育英太鼓は、息を合わせることが意識していました。一人一人の真剣なまなざしに引き込まれます。迫力のある演奏をぜひお楽しみください。

このように、様々な側面から構成されています。どれも、日ごろの学習成果が伝わるように表現しました。例年とは違う形ですが、発表の機会があることでこれまでの自分を振り返ったり、練習を積んだり、みんなと合わせたりするなど努力しました。この取組が子供たちの成長に繋がっていれば嬉しいです。

## 創立20周年記念集会・記念アトラクションについて

アトラクション担当 赤堀 美喜夫

学習発表会当日、公開予定の動画の中から、記念集会・記念アトラクションについて紹介いたします。

まずは、記念アトラクションの群読です。北原白秋の「お祭り」を台東育英小学校の20周年のお祝いとして、1年生から6年生までが学年ごとに群読をするパートを分担して、だんだん盛り上がっていくように工夫しています。本来なら、全校児童が体育館で元気に声を出すところですが、新型コロナウイルス対策として、全員が集まることができない中での群読になっています。

また、もう一つの、【ぼくのわたしの主張】は、全校児童が集まる記念集会の中で行うことを予定していましたが、形を変えて行いました。全校児童が学校などへの願いを書きました。その中から各学級2名の児童が代表として、【ぼくのわたしの主張】をビデオカメラに向かって思いをこめてメッセージを伝えています。担任の先生への願い、校長先生への願い、給食室の方々への願い、社会全般に対する願いなど、つい微笑んでしまう内容や考えさせられる内容などがあります。子供たちの素直な願いや思いに耳を傾け、広い心で受け止めてください。代表になっていないご自分のお子さんにも、何を書いたのか、聞いてあげてください。

## 創立20周年記念式典

周年委員会 林 和世

11月13日（土）に台東育英小学校創立20周年記念式典が行われました。全校児童でお祝いの会をしました。台東育英小学校の伝統と誇りを受け継いでいく気持ちを大切に、学校生活を送ってほしいという、校長先生のお話を聞きました。地域の方々、保護者の方々のご協力で準備された記念品が紹介されると、子供たちは歓声を上げて喜んでいました。

記念式典に出席した6年生の姿はとても立派で、学校のリーダーとしてとても頼もしく感じました。



## 4・5年宿泊代替事業について

4年担任 後藤ひとみ

10月29日に4、5年生でよみうりランドへ行ってきました。

子供たちにとって久しぶりの校外学習。出発前から、どきどき、わくわくが止まらない様子でした。

子供たちに一番人気だった乗り物は、よみうりランドの看板アトラクションである『バンデット』。かなりスリリングで、中には涙目になっている子もいましたが、同じ班の友達が声をかけてあげている優しい姿を見ることができました。お昼には、久しぶりのお弁当を嬉しそうに頬張る姿も見られました。

この代替事業で、仲間を思い合う優しい気持ちが育ったように思います。保護者の方々も持ち物等、ご協力いただきありがとうございました。

